

星花きらめく



令和3年4月6日(火)

長野市立裾花中学校

NO. 1

213名の新入生を迎えて、新年度スタート！

本日4月6日(火)、213名の一年生を迎え、全校生徒653名、教職員55名で令和3年度がスタートしました。

今年度第63回入学式も、昨年同様、新型コロナウイルスの影響で新入生・保護者各家庭1名・教職員で行い、式次第も短縮した形で実施しました。また、その後の始業式も、1～3年の生徒の皆さんは各教室において、放送で行いました。各学年、新年度の新たな出会い大切にし、全校生徒が3つの学校目標である「敬愛・自律・丹精」を柱に、「仲間と共に考え、判断し、行動する生徒」の育成を図り、また、「生徒が笑顔で登校する学校」を目指していきます。皆さんの成長のために私たち職員も力を合わせ、心新たに頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

<< 新たに17名の先生方をお迎えしましたので、紹介します >> * () は、前任校

青木健太朗	国語 (長野市立大岡中学校)	伊藤 進	国語 (長野市立広徳中学校)
石黒 崇	社会 (横浜市立小山台中学校)	柳澤 裕	数学 (長野市立若穂中学校)
牛山 典子	理科 (長野市立川中島中学校)	原 武男	音楽 (長野市立東北中学校)
宮崎芳る美	福祉 (長野市立犀陵中学校)	宮川 和男	保体 (長野市立信更中学校)
宮本 宜明	保体 (長野市立東北中学校)	山本 一博	保体 (南箕輪村立南箕輪中学校)
居川 徹	技術 (長野市立西部中学校)	関澤 雪野	理科 (長野市立広徳中学校)
中村紗矢香	英語 (長野市立北部中学校)	森泉 順子	英語 (長野市立篠ノ井西中学校)
渡辺さとみ	英語 (長野市立若穂中学校)	大内 隆利	保健 (長野市立信里小学校)
山田 真代	保健 (長野市立若穂中学校)		

◇裾花中学校 学校教育目標

敬愛：深い思いやりをもち、筋道立てて、

気づいたことを正確に伝える生徒(論理的思考力)

自律：自分の生活を見つめ、よりよく生きようとする生徒(社会性)

丹精：課題をもって学び、自分を磨き鍛える生徒(学びに向かう力)

保護者の皆様や地域の皆様との連携のもと、ご支援・ご協力をいただきながら、共にたくましく実践力のある生徒の姿を願い、支援していきことができると考えております。どうかよろしくお願いたします。

◇令和3年度の重点活動

重点1 【へづくり】グループ担任制の導入、校内中間教室の設置等、校内支援体制を整え、生徒の自己有用感や自己肯定感を高めていきます。

重点2 【授業づくり】共に学び合うインクルーシブな教育を推進し、個別最適化された授業の実現により、学力の定着を目指します。

重点3 【学校づくり】 保護者や地域と連携し、教育力を取り入れながら、落ち着きと活気を両立する、

「安全・安心な学校」を目指します。

☆新型コロナウイルス感染症再拡大に伴う対応に関わって(お願い)

本日より春期休業が明け、1学期71日間がスタートしました。そんな中、長野圏域、特に長野市は現在感染警戒レベル5となり、特別警報Ⅱが発出されております。子どもたちの安心・安全の確保ためこれまで同様、いやそれ以上に防止策の徹底に努めて参りたいと思います。

生徒の皆さん、保護者の皆様方には、これまでも多くのご理解とご協力をいただきて来ましたが、新年度も何卒よろしくお願ひいたします。

【コロナ禍での服装等の確認について】

○現在、登下校時の服装は、制服(冬服)を原則としています。

※ただし「新型コロナウイルス感染防止の観点から、運動着での登下校を希望する場合は、保護者から学級担任に連絡をお願いいたします」となっております。この他にもご心配なこと等がありましたら、学級担任やグループ担任、各学年職員等に相談願ひます。

◆引き続き以下の点について、確認とご対応をお願いいたします。

- ① 日々の健康観察の実施 → 登校前の検温及び Forms 回答
(または、健康チェックカードの実施)
 - ・生徒本人だけでなく、同居する皆様全員の健康観察をお願いします。
 - ・健康観察の結果、発熱等(その他6つの項目)の風邪症状がある場合は、お子様の登校を見合わせてください。
 - ・生徒本人に発熱等の風邪症状がない場合でも、同居の方に風邪症状がある場合には、登校を控えていただくようお願いいたします。※感染防止のため登校を見合わせる場合は、出席停止となり、欠席扱いにはなりません。
- ②濃厚接触者等となった場合、或いは、PCR検査等を受けた場合
 - ・生徒本人や同居の方が、濃厚接触者等に特定された場合や、医療機関の指示などでPCR検査等を受ける場合(または、受けた場合)は、必ず学校にご連絡ください。
 - ・近親者等が濃厚接触者や接触者の疑いがあり、感染の心配が予想される場合にも、学校への連絡をお願いいたします。※同居の方がPCR検査等を受けた場合について、検査の結果「陰性」と判明するまでの間は、お子様の登校を控えていただきますよう、ご協力ください。
- ③手洗いや咳エチケット、換気、手指消毒については、学校生活で再度確認してまいります。ご家庭でも、重ねてご指導いただきますよう、お願いいたします。
- ④登下校時も含め、マスクの着用を引き続きお願いいたします。



1 学期始業式～ 校長先生のお話より～

今日は、年度のスタートに当たり、目標をもって取り組むことについて、競泳女子選手、池江璃花子さんの姿に学びたい。

池江さんは、4月5日に行われた水泳の日本選手権で、女子100mバタフライに出場し、57秒77で優勝を果たした。単独種目として、東京オリンピックの派遣標準記録は突破できなかったが、女子400mメドレーレーの選考基準を突破したことにより、東京オリンピック代表を決め、大きなニュースとなった。

皆も知っていると思うが、池江さんは2019年2月、自身の白血病を公表した。それまで、天才スイマーの名をほしいままにし、16歳でリオデジャネイロオリンピックに出場し、東京オリンピックでは金メダルの獲得が期待されていた。その彼女が突然、病に襲われた。血液のがんと言われる白血病だけに、その動揺はいかばかりかと推測されるが、彼女はツイッターで、「神様は乗り越えられない試練は与えない、自分に乗り越えられない壁はないと思っています」と、前向きな気持ちをつづっていた。

その後、化学療法による治療を行うが、合併症を併発して継続が困難となり、造血幹細胞の移植を行った。幸いにも、この治療が功を奏し、病状は快方へと向かい、12月17日に退院を迎える。彼女はホームページやSNSに次のような文章を発表し、退院を報告した。

「2月から入院生活をし、約10カ月の月日が経ち、この度退院することができました。辛くて長い日々でしたが、皆様からの励ましのメッセージを見て、早く戻りたいと強く思うことができました。応援してくださった方々や関係者の方々、そして家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

入院中、抗がん剤治療で吐き気が強い時や倦怠感もありましたが、そんな時はとにかく『大丈夫、大丈夫、いつか終わる』と自分を励まし続けました。オリンピックを目前に控えていた中、突然、大好きなプールを離れ、失ったものが多いのではないかと思った方もいらっしゃると思いますが、私は病気になったからこそ分かること、考えさせられること、学んだことが本当にたくさんありました。ネガティブ思考になる時もありましたが、まずは自分の気持ちをしっかり持たないといけないんだと思い治療に励みました。

今後の競技活動については医師と相談しながら水中トレーニングが可能になり次第開始します。それまでは基礎体力をつけながら陸上トレーニングをしていく予定です。オリンピックについてですが、2024年のパリ五輪出場、メダル獲得という目標で頑張っていきたいと思います。これからも応援よろしくお願ひします」

先の見えない辛い治療の中でも、「大丈夫、いつか終わる」と自分を励まし続け、失意の中でも、「まずは自分の気持ちをしっかり持たないといけないんだと思い治療に励みました」と、決してあきらめない姿を常にもち続けていたことがわかる。

7月2日、池江さんは退院後、初めて練習を公開する。月に1度通院しながら週に4日練習を行い、「病気になって1からになったけれど、みんなと練習できたり楽しい思いができていたりして本当に水泳をやっていて良かったなと思います」と語る。今後の目標について聞かれると、「インカレにみんなで出るという目標がすごい原動力になっていますし、やっぱり2024年のパリ五輪に出たいと言う気持ちだったり、みんなよりも速く泳ぎたいという気持ちがあるので、その気持ちが自分の原動力となっています」と語った。ここでも目標が原動力だと語っている。

時は流れ、今年2月21日、池江さんは「東京都オープン」に出場する。この大会は、東京オリンピックの選考会となる、4月の日本選手権への出場権獲得を目指す学生中心の大会で、彼女は復帰後初めて、体への負担が大きいバタフライにも出場した。そして、バタフライ50mで優勝を遂げ、同種目100m、自由型50m、100mでも、日本選手権出場のための標準記録をクリアする。この時のインタビューでは、4月の日本選手権について「出場種目を慎重に検討している」と言い、東京オリンピックについて尋ねられると「今の最大の目標は2024年のパリオリンピックで、そこをクリアできるように、どんどん記録を伸ばしていきたい」と語っていた。

この後、池江さんは、日本水連が定めた派遣標準記録をクリアして2位以内に入れば、東京オリンピック代表に内定する日本選手権に、上述の4種目にエントリーをし、最初に紹介したように、バタフライ100mでそれを成し遂げた。

優勝インタビューで池江さんは、「まさか、100で優勝できると思ってなかったですし、5年前のオリン

ピック選考会よりも、ずっと自信もなかったし、自分が勝てるのは、ずっと先のことだと思ってたんですけど。勝つための練習もしっかりやってきましたし、最後は『たがいま』っていう気持ちでこのレースに入場してきたので、自分がすごくつらくてしんどくても、努力は必ず報われるんだなんていうふうに思いました」と答えた。そして、最後に、「ものすごく自信のついたレースでもあったので。派遣は切れたんですけど代表に入れるかどうかはまだ分からないので、しっかり 100 の自由形も残ってますし、あと 3 本あるので、気を抜かず頑張りたいと思います」と、次を見据えて語った。

どんなに苦しい時でも、決してあきらめず、前向きな気持ちをもち続け、目標をもって取り組んだ結果、東京オリンピック出場という偉業を成し遂げることができたのだ。途中の彼女の言葉には、東京オリンピック出場という言葉はどこにもない。パリオリンピックという、先を見据えつつ、目の前の課題に、日々、精一杯取り組んだ結果、偉業を成し遂げたのだ。決してあきらめること、努力を積み重ねていった池江さんの姿勢に学んでいこう。コロナ禍で、先を見通すことのできない今だからこそ、目標をもち、一歩ずつ、確実に足取りを進めていこう。

最後に、学校においてみんなが授業を通して目標を達成していくためには、学校という場所が、一人ひとりにとって安心できる場所であってはいけない。先程、入学式の中でも、話したことだが、今年度、裾花中学校は「全校生徒が笑顔で登校する学校」を目指す。学級、各学級には、国語の得意な人、苦手な人。運動の得意な人、苦手な人。絵の得意な人、苦手な人。身長の高い人、小さい人。等々、様々な生徒がいて、そして、学んでいる。一人ひとりが笑顔で登校するためには、学校、各学級が一人ひとりにとって安心できる場であってはいけず、そのためには、一人ひとりの違いを認め、受け入れる環境が整っていなければならない。金子みすゞさんは「みんなちがってみんないい」と言っているが、まさにそうであらなければならない。

生徒同士、生徒と職員、職員と保護者等々、意思の疎通を図りながら、安心して安全な学校づくりを進めていきたい。生徒のみんなも協力してほしい。



セクハラや生徒に関わる相談窓口は、
西澤 友子（養護教諭）
小伊藤裕子（養護助教諭）
山崎 聡（教務主任） です

長野市立裾花中学校 文責 市川 寿（教頭）
電話：026(226)1804
FAX：026(226)1881
電子メール susobanajh@nagano-ngn.ed.jp

